※

昔々、じいさんとばあさんがいた。じいさんが豆えらびをしていると、豆がコロコロコロところげて、土間のすみのネズミ穴におちこんでいった。するとネズミがでて来て、「ジジモサ、ジジモサ、バンゲモチツキダカラ、モチクウニキテケレド」と、迎えに来た。

じいさんは、ネズミのはかまにつかまっていったら、ネズミたちは、「百になっても二百になっても、ネコの声聞きだくねデタバタコンコン」と、つきだしたが、いつまでたってもモチをくわせてくれないので、腹をたてて一声ニャオンといったら、ネズミたちはにげてしまった。ジイさんがオイオイなきだした。その声がばあさんに聞えたので、ばあさんは棒をもって土間をほりおこしたら、じいさんがベロリとでてきたけど。